

# 名古屋市における子どもの貧困

上村 泰裕 (kamimura@nagoya-u.jp)

# 名古屋市子育て調査の概要

---

- ▶ 名古屋市「平成25年度子ども・子育て家庭意識・生活実態調査」。
- ▶ 調査期間...2013年10月。
- ▶ 回収数と回収率...就学前保護者(回収数4311、回収率35.9%)、就学後保護者(回収数3616、回収率30.1%)、子ども(回収数2148、回収率26.9%)。
- ▶ 名古屋市子ども青少年局から委託を受けて再分析。

# 政策社会学のめざすところ

---

- ▶ 「政策社会学は、顧客が決めた目標に仕える社会学である。政策社会学の存在理由は、目前の問題に対する解決策を提供すること、ないしはすでに決まっている解決策を正当化することにある。顧客によっては、細かい契約で社会学者の研究課題を縛る場合もあれば、パトロンとして大まかな政策課題を示すだけの場合もある」(Burawoy 2005: 9)。
- ▶ 「ブラウォイの表現を彼の意図に反して流用すれば、公共社会学ではなく政策社会学を通じてこそ、私たちは鋭い問題意識に裏打ちされた「専門的」研究を展開することができるし、現実に対して「批判的」スタンスを保つこともできるし、研究者の資格で「公共的」討議に加わることもできるのである」(上村 2009: 2)。

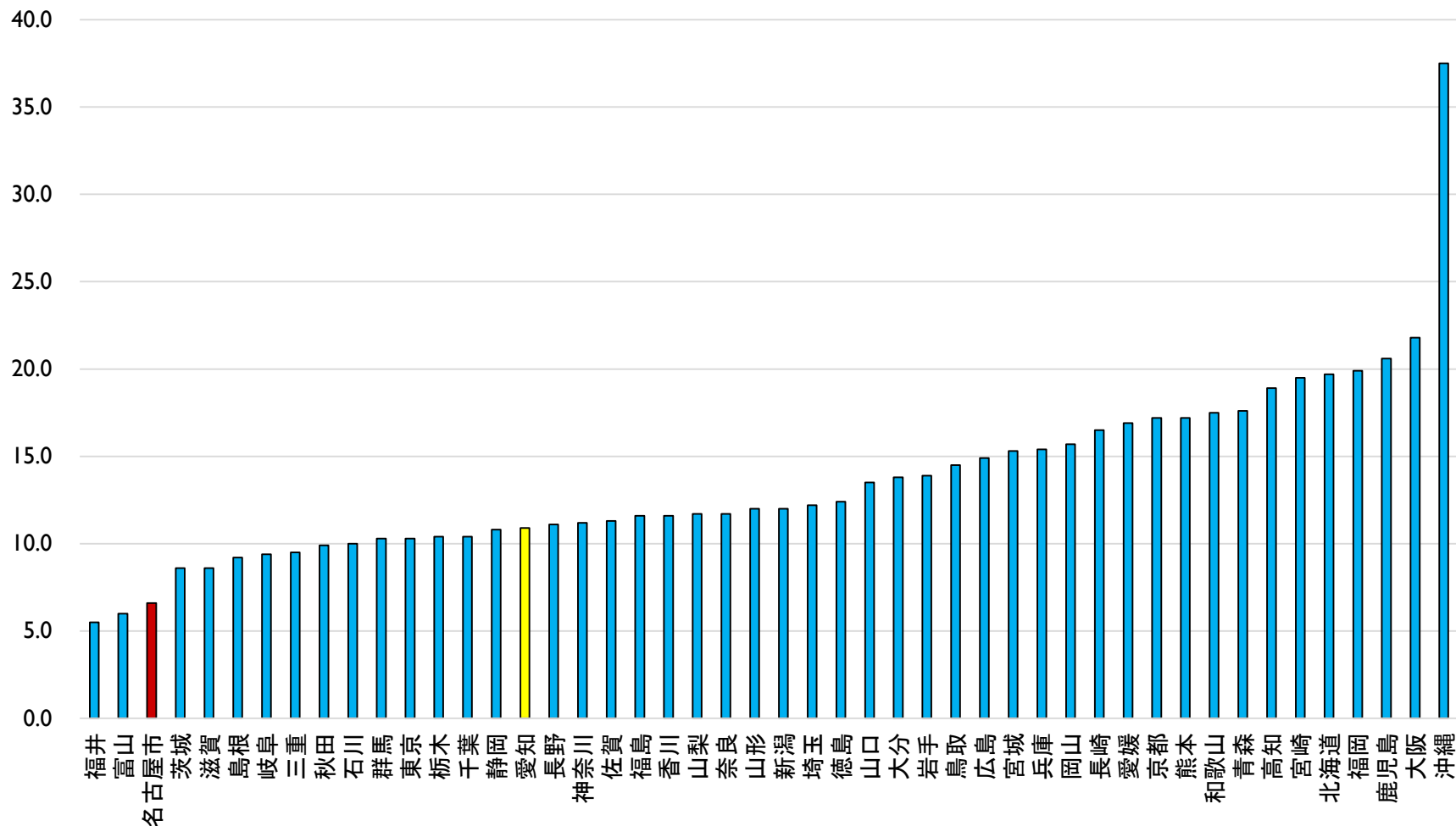
# 名古屋市の子どもの貧困率

---

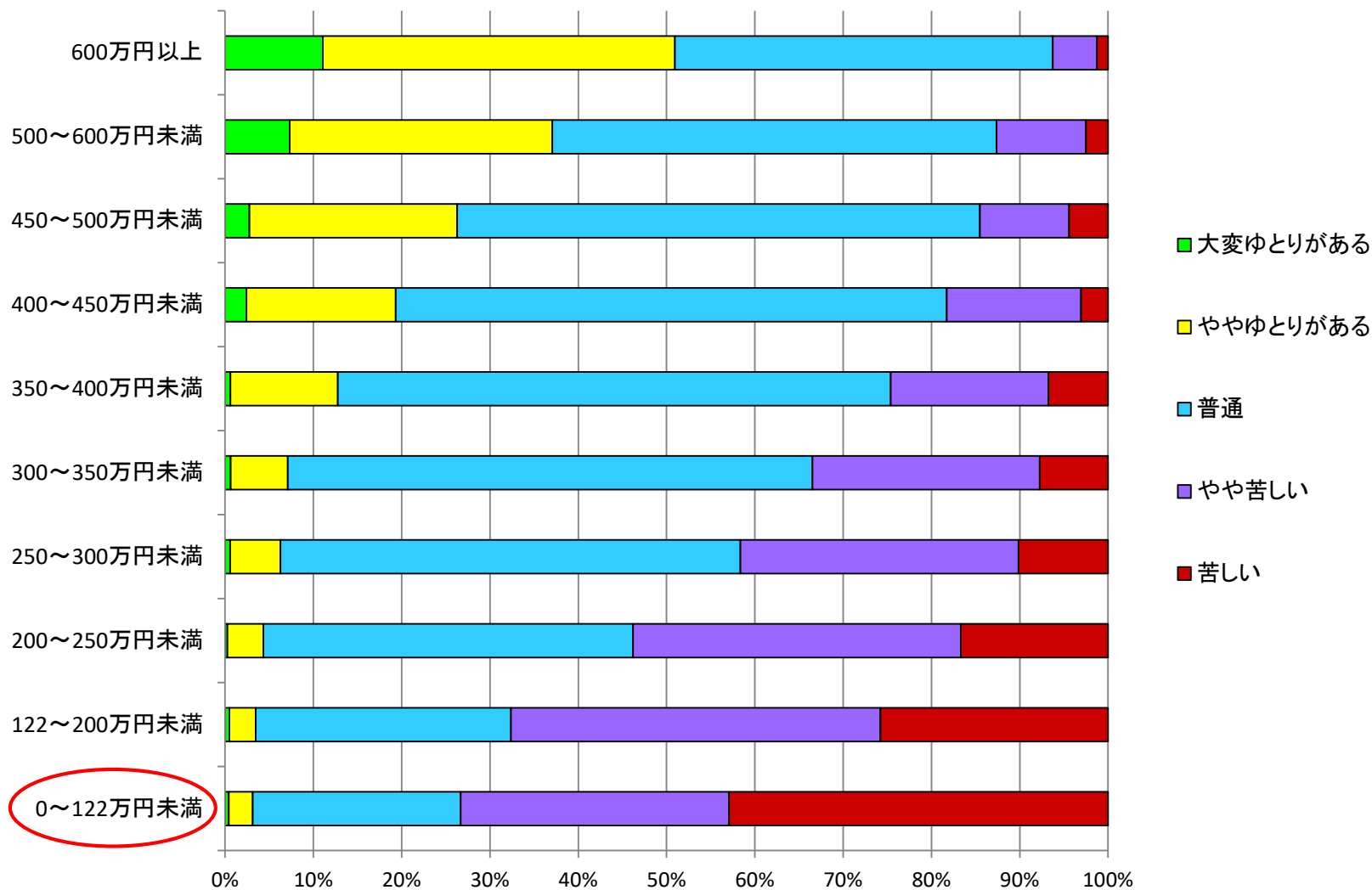
- ▶ 全国における貧困線 = 122万円 (2012年、厚生労働省『平成25年国民生活基礎調査』)  
→ 名古屋市子育て調査 (2013年) の貧困率 = 6.6%  
(等価所得を算出できる7461人のうち491人)
- ▶ 参考: 全国における子どもの貧困率 = 16.3% (2012年)
- ▶ 参考: 名古屋市子育て調査における貧困線  
(等価所得の中央値の半分) = 150万円  
→ 名古屋市子育て調査の貧困率 = 9.9%

# 名古屋市の子どもの貧困問題は小さい？

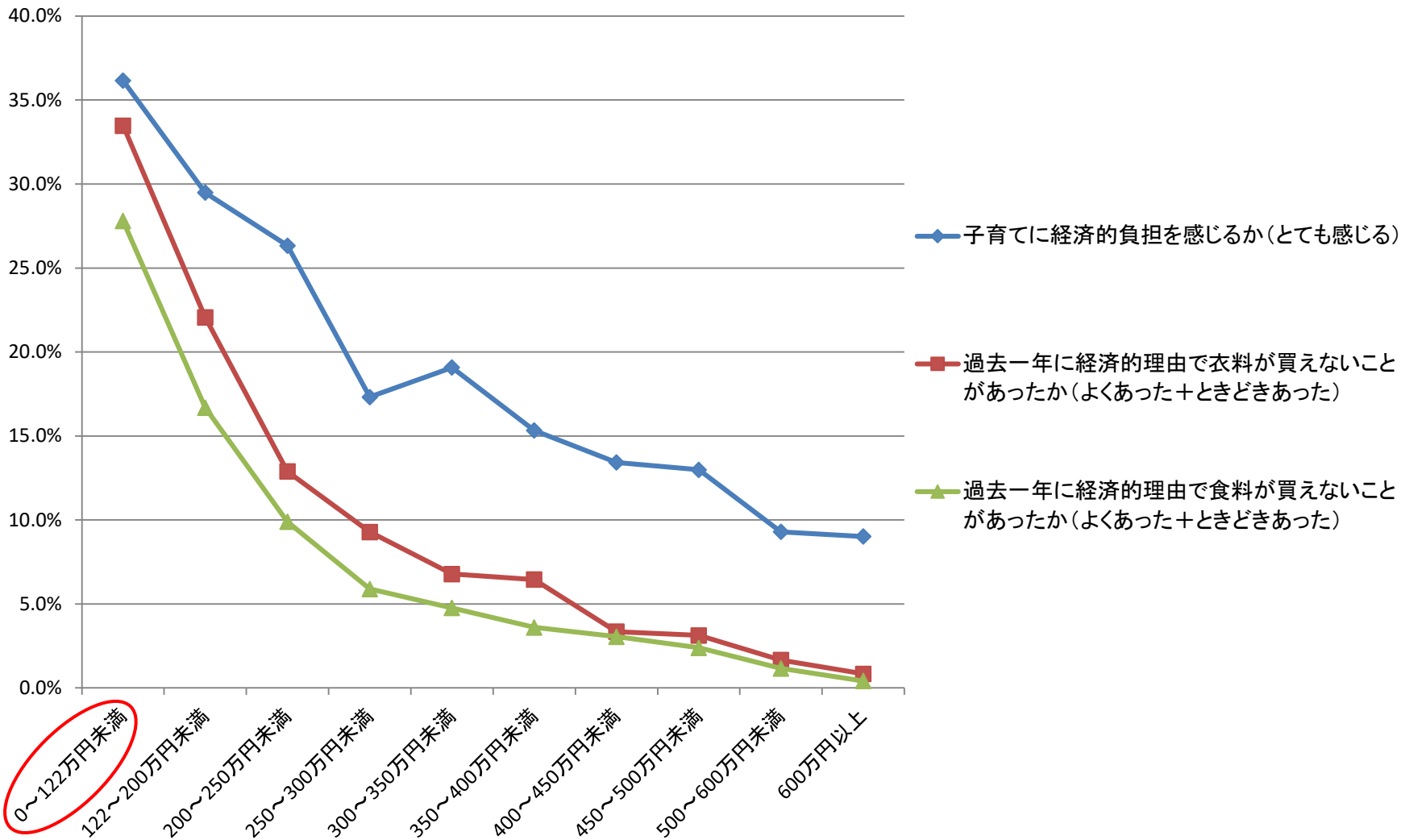
子どもの貧困率(都道府県は2012年、名古屋市は2013年)



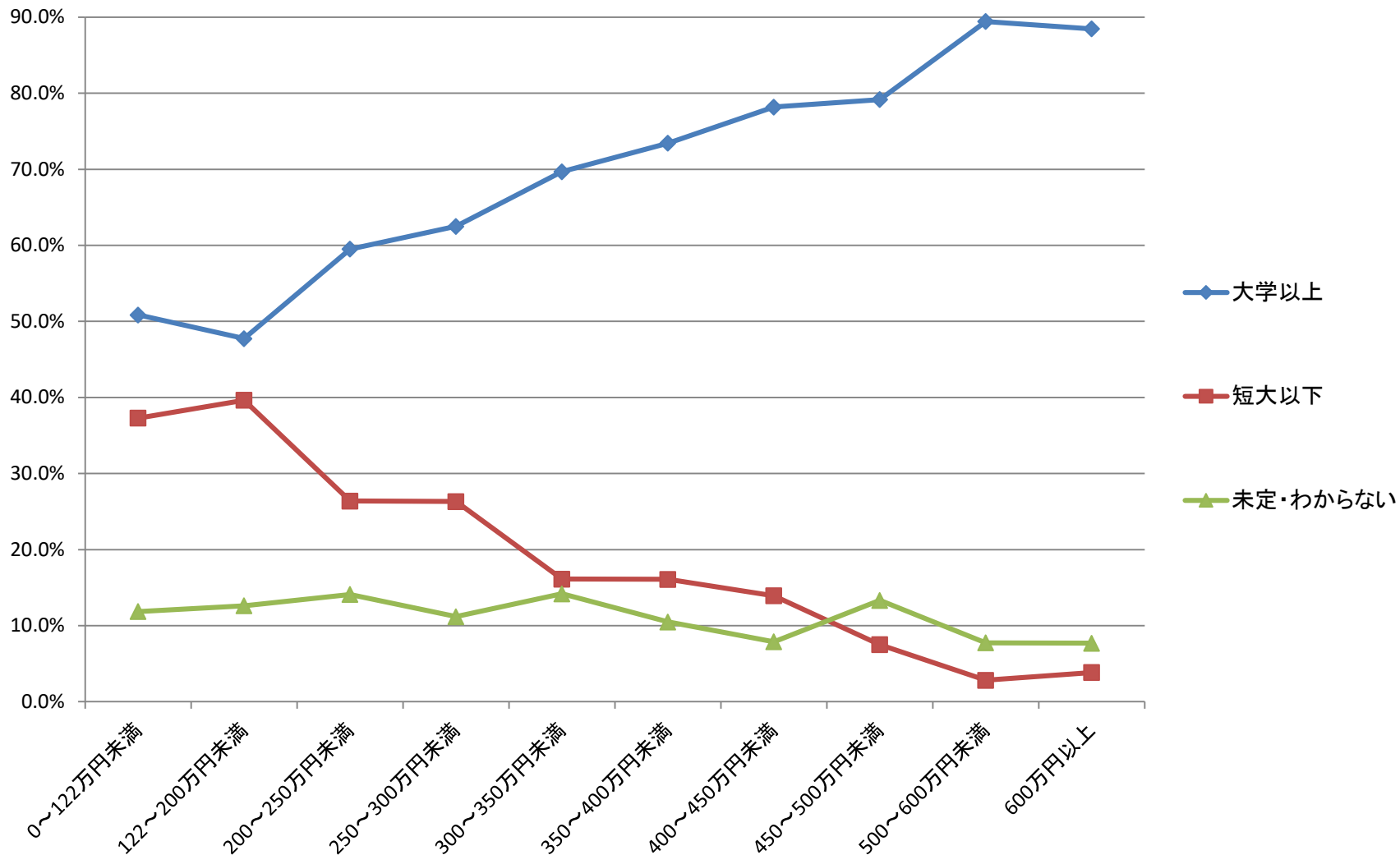
# 子育て世帯の暮らし向き



# 子育て世帯のなかの貧困

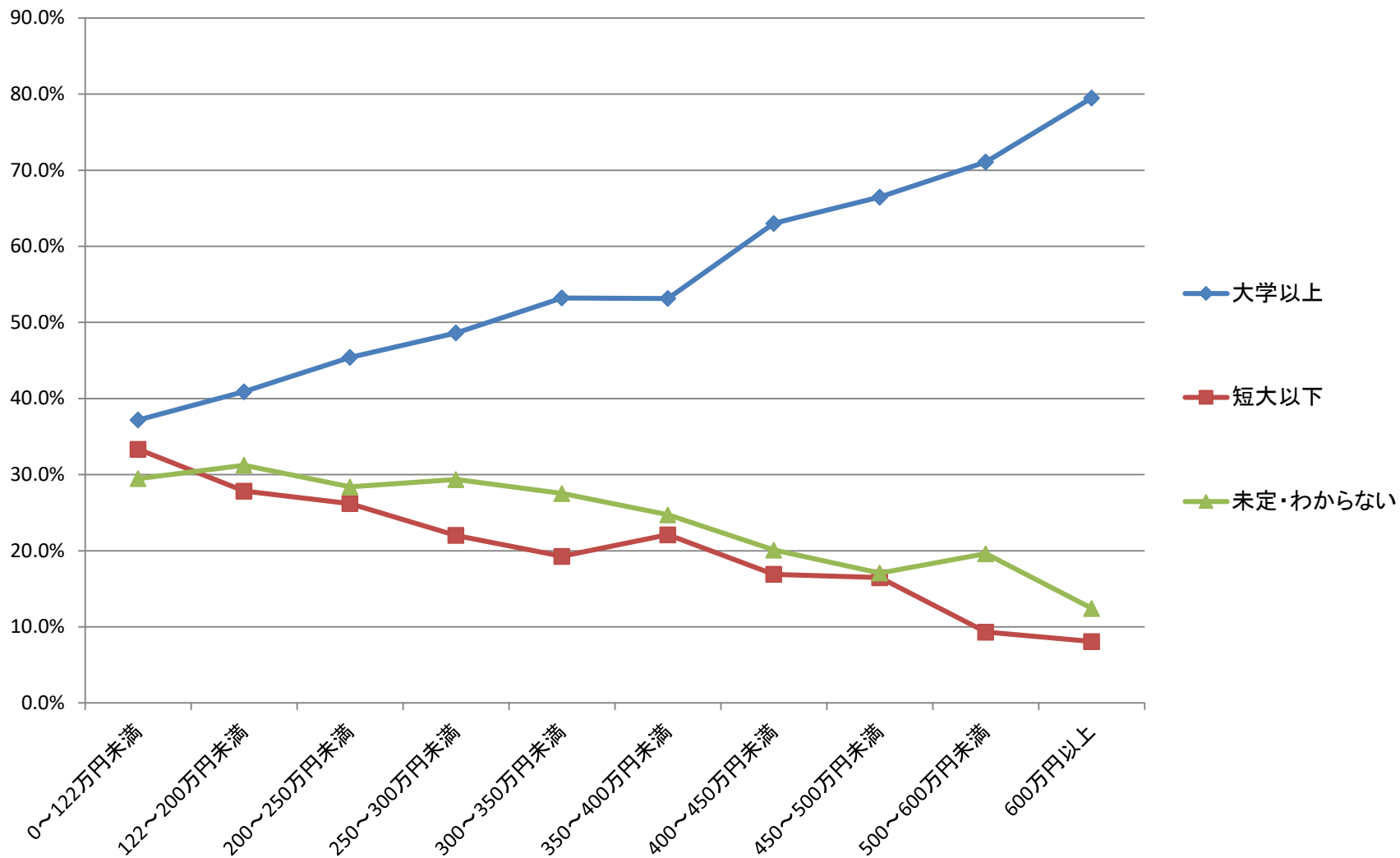


# 中高生の親の進学希望





# 中高生自身の進学希望

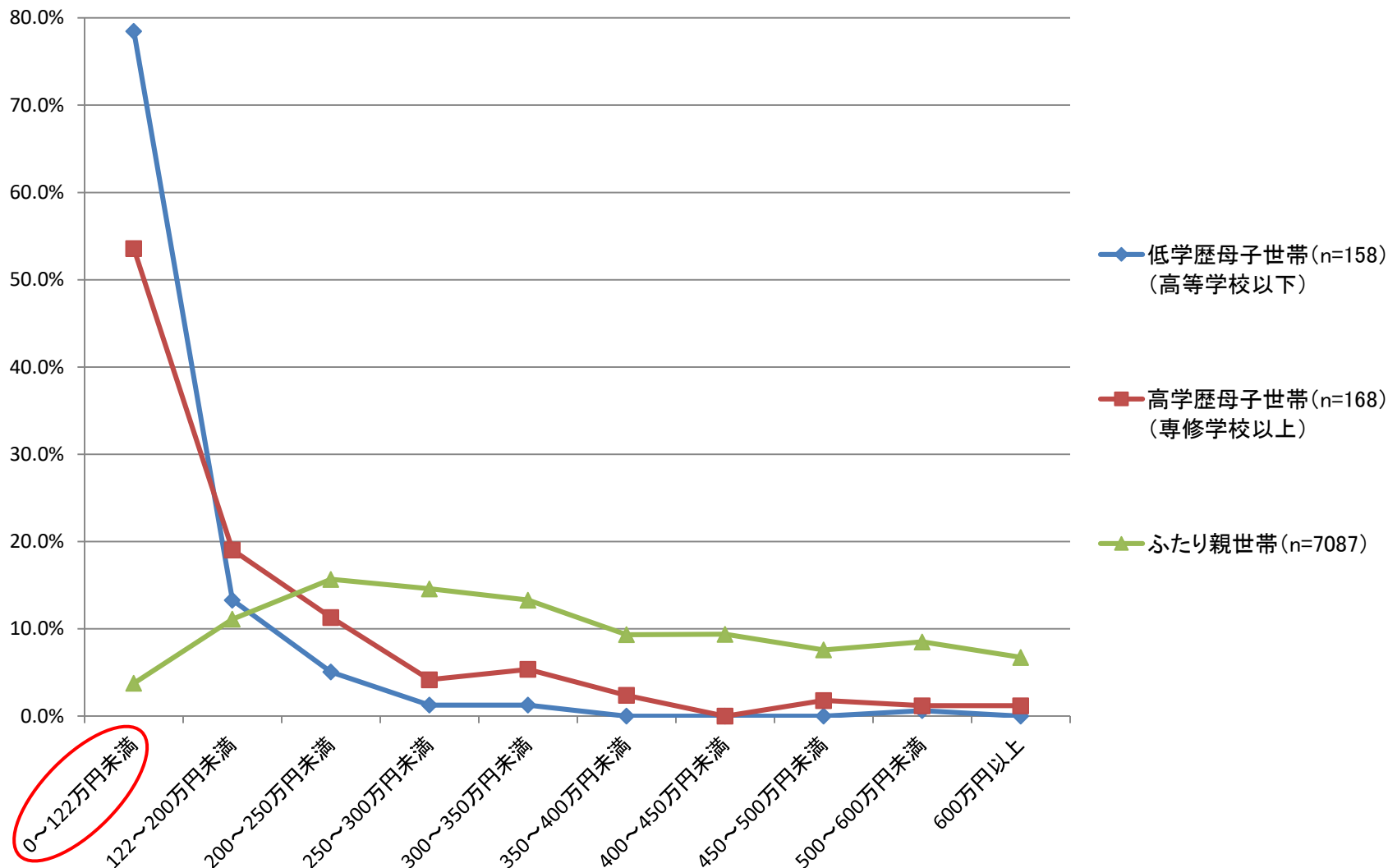


# 世帯類型と貧困

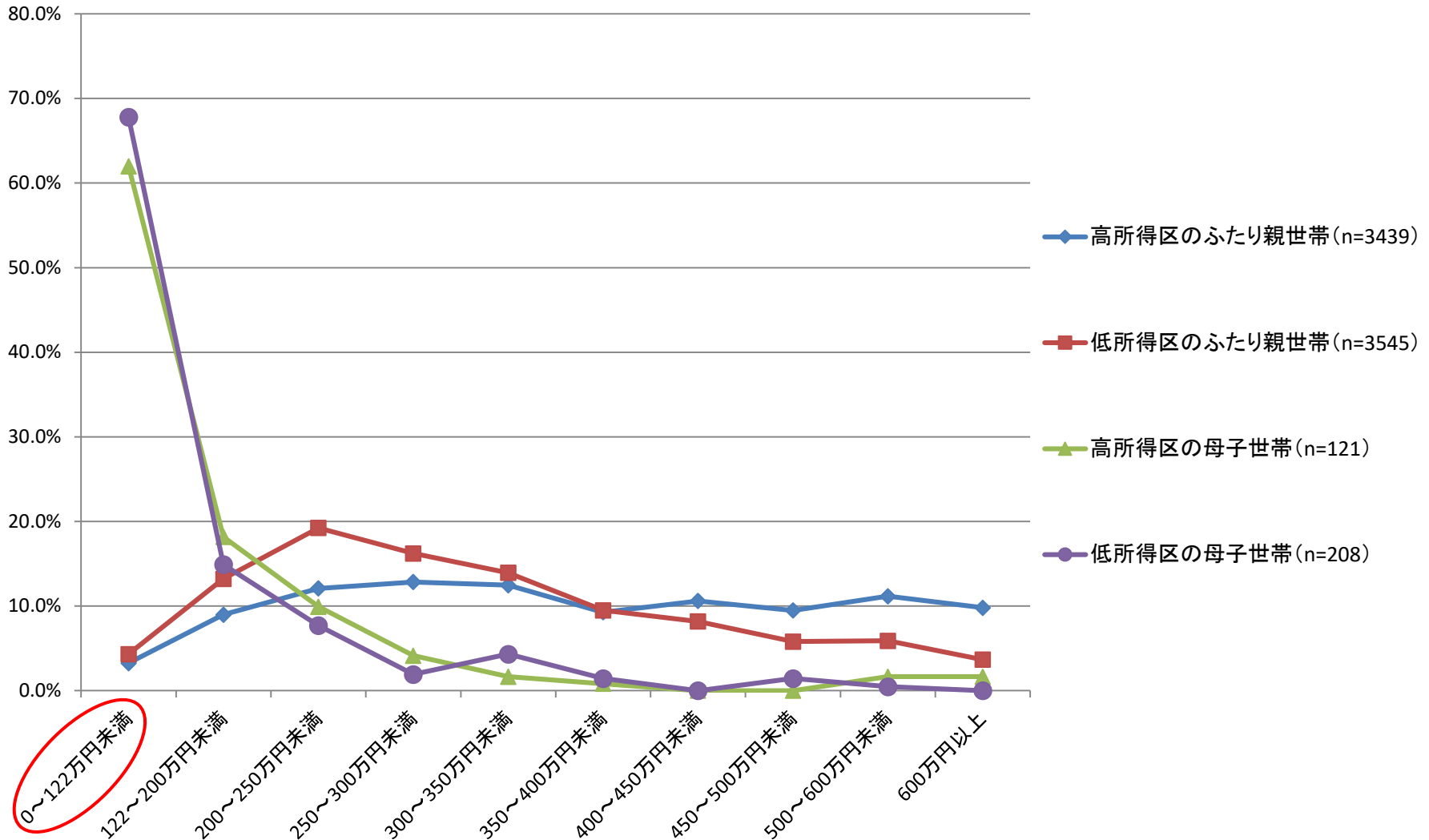
---

- ▶ 貧困世帯の子ども491人のうち、ひとり親世帯45.6%、ふたり親世帯54.4%(うち父正社員25.1%、その他27.5%)。
- ▶ ふたり親世帯の貧困率=3.8%(全国は12.4%)
- ▶ ひとり親世帯の貧困率=59.9%(全国は54.6%)  
(母子世帯は65.3%、父子世帯は15.0%)
- ▶ 子どもの貧困はひとり親世帯(特に母子世帯)に集中。
- ▶ 名古屋市のひとり親世帯の貧困率は全国より高い。

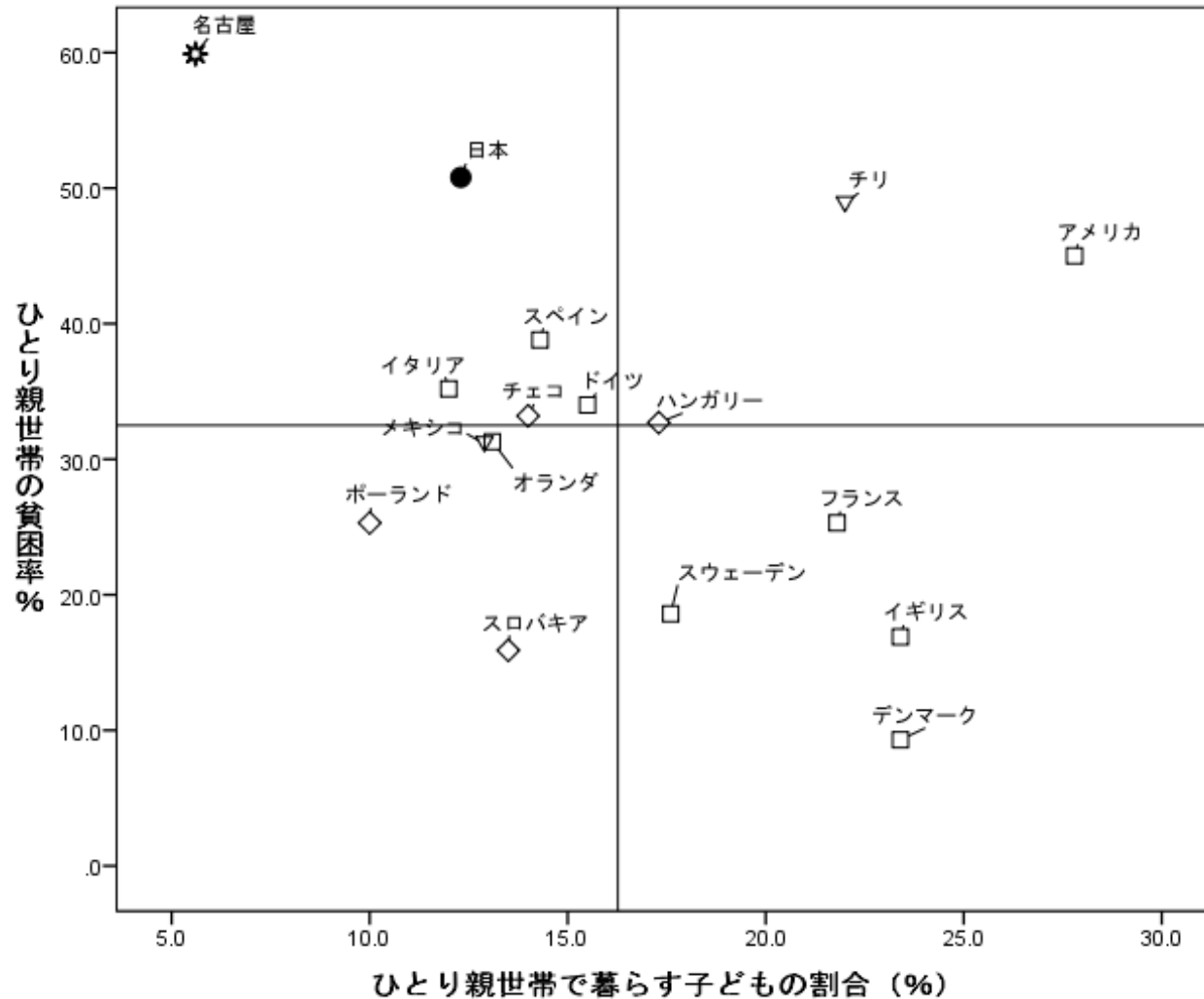
# 母子世帯への貧困の集中



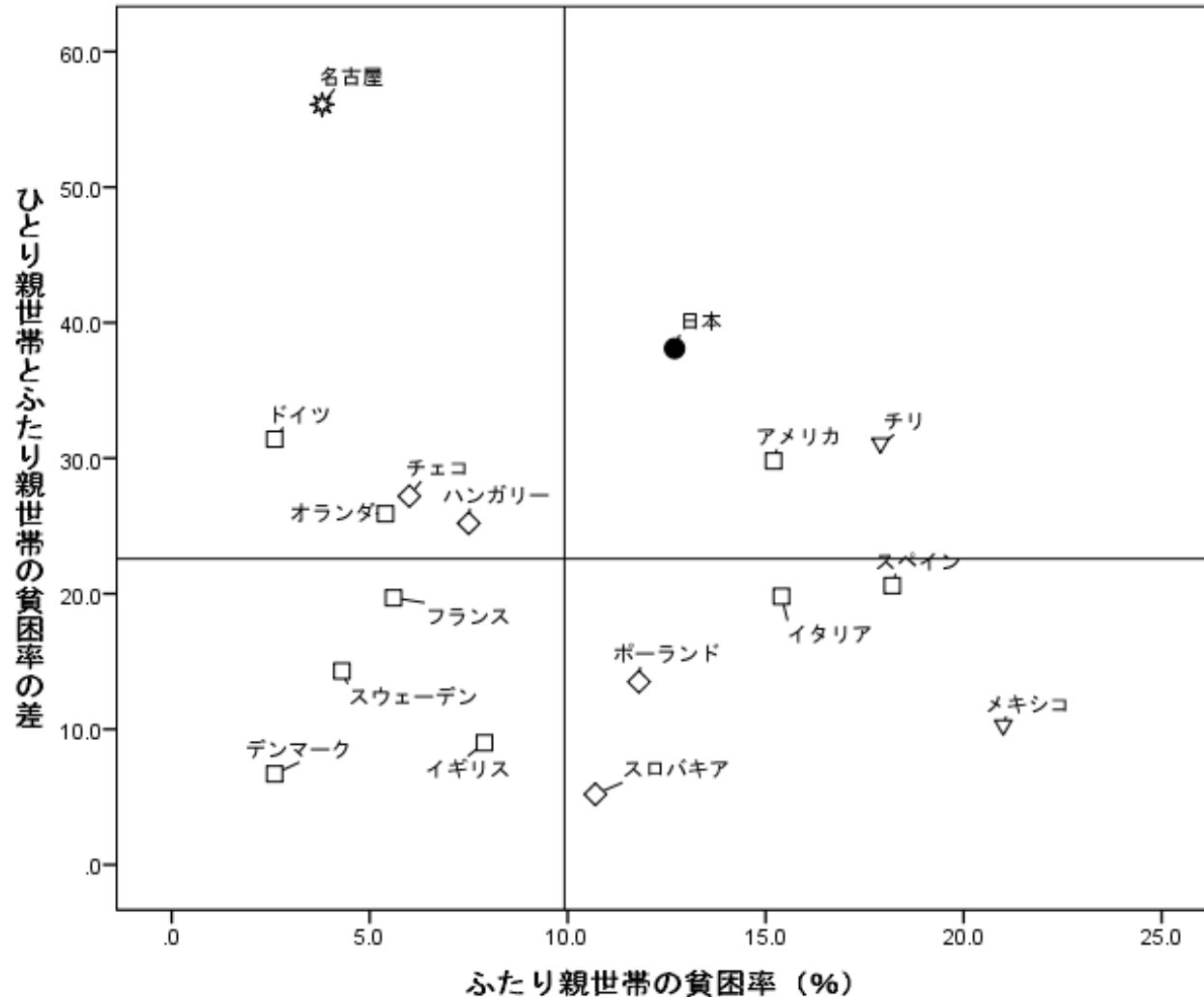
# 居住地は無関係



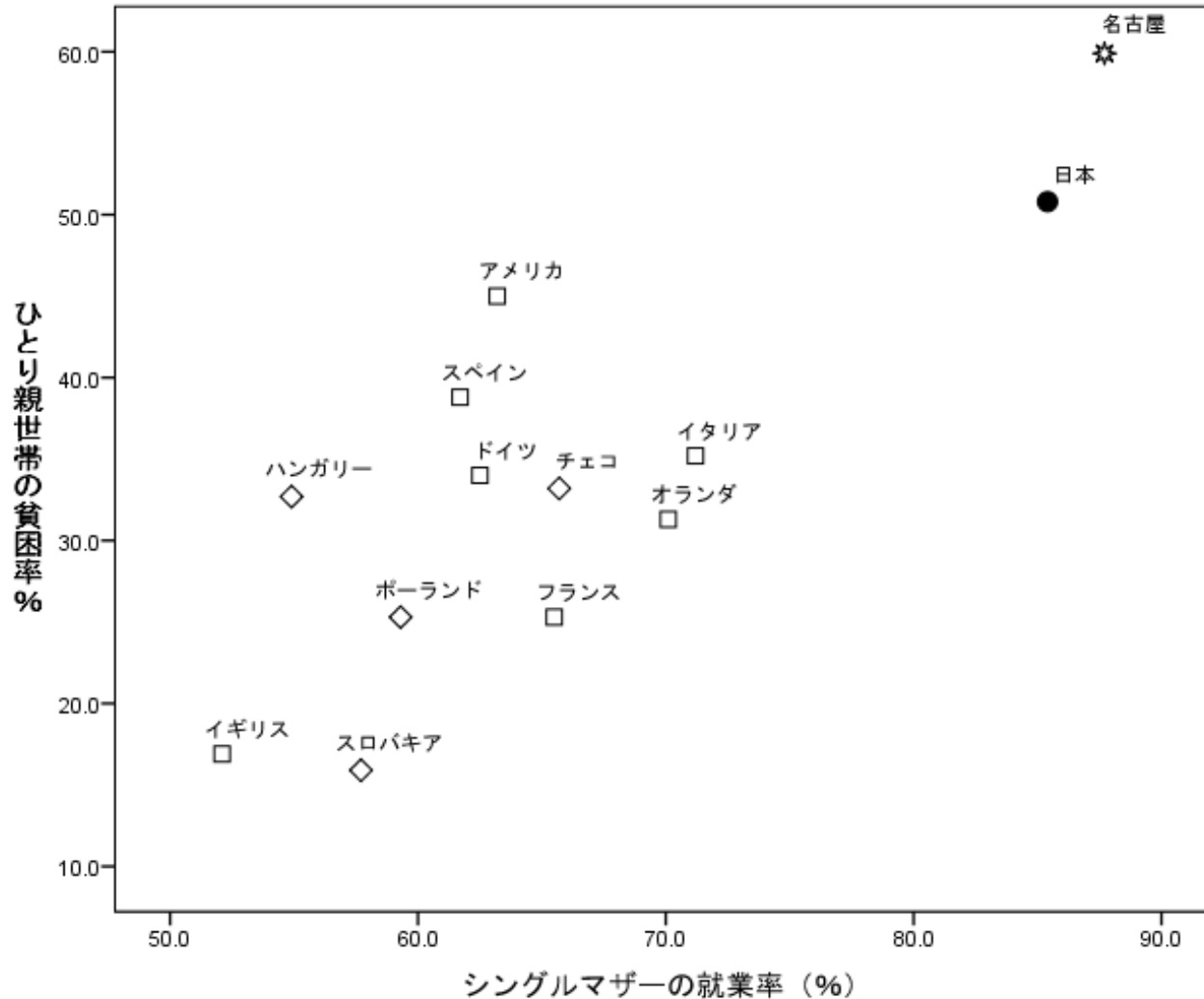
# 国際比較：ひとり親世帯と子どもものの貧困



# 国際比較：ひとり親世帯の相対的不利



# 国際比較：働かないから貧しいのか？







# 結論

---

- ▶ とりあえず公共の場で報告できて満足。
- ▶ 名古屋市の子どもの貧困は見えにくい。それだけに、当事者にとっては相対的剥奪感が強いと推察される。経済的理由で衣料や食料を買えない子育て世帯が現に存在する。
- ▶ 貧困はひとり親世帯(特に母子世帯)に集中している。名古屋市では全国に比べてもこの傾向が著しい。母子世帯は、学歴や居住地域にかかわらず貧困に陥りやすい。
- ▶ 名古屋市のひとり親世帯の貧困率が全国平均よりも高い理由は何か。名古屋市のシングルマザーは働いている。福祉抑制による貧困か？さらなる検討が求められる。

# 文献

---

- ▶ 上村泰裕, 2009, 「政策社会学の課題」『名古屋大学社会学会会報』10号, pp.1-2.
- ▶ 上村泰裕, 2015, 「国際比較から見た日本の子どもの貧困と社会的養護」『世界の児童と母性』第79号, pp.56-60.
- ▶ 戸室健作, 2016, 「資料紹介——都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、捕捉率の検討」『山形大学人文学部研究年報』第13号, pp.33-53.
- ▶ Burawoy, Michael, 2005, “2004 Presidential Address: For Public Sociology” *American Sociological Review* 70(1): pp.4-28.